

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、東日本大震災の影響が残るものの、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年5月)	今回(平成23年8月)	
総括判断	東日本大震災の影響により、弱含み	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直しの動き	
鉱工業生産	東日本大震災の影響により、減少	持ち直しの動き	
観光	東日本大震災の影響により、大幅に減少	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直しの動き	
住宅	増加	大幅に増加	
雇用情勢	弱含み	持ち直しの動き	

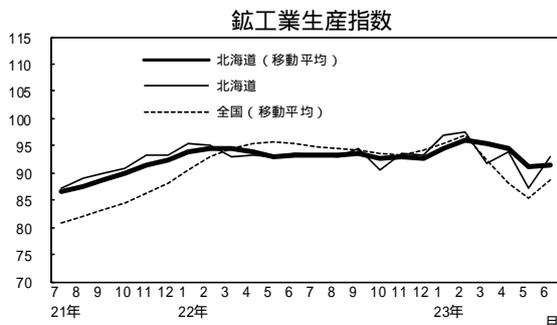
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。

4～6月期は、生乳生産は、牛乳等向けでは増加したものの、乳製品向けで減少したため、総量では987,457tと前年比1.7%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、さんま等で前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

食料品は、4月に飲料水の代替生産が加速したことから増加した。パルプ・紙は、前期比で増加となったが、減産傾向が続いている。鉄鋼は、震災による海外向け自動車向け鋼材の生産調整等から減少した。電気機械は、震災の影響により部品調達が困難となったため、大きく減少した。金属製品は、民需向けで持ち直しの動きがみられたこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
食料品	23.9	1.1	3.1	9.5	4.7
パルプ・紙	10.7	5.5	0.6	9.3	0.7
鉄鋼	8.6	12.0	7.4	1.0	1.0
電気機械	8.4	7.3	21.4	18.3	13.9
金属製品	8.0	23.3	23.5	27.4	21.1
鉱工業	100.0	3.1	4.2	0.3	5.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

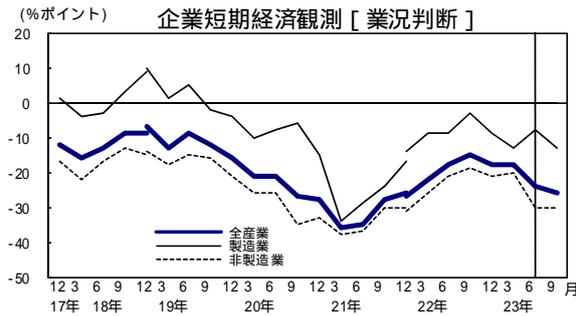
2. 4～6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

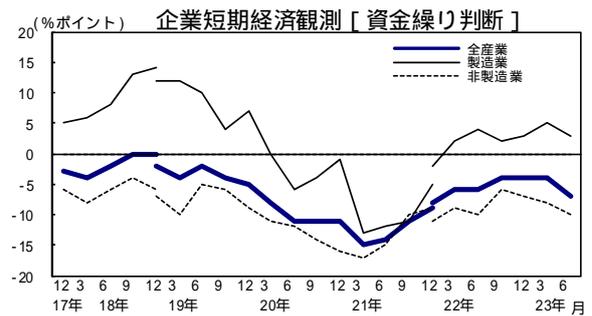
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

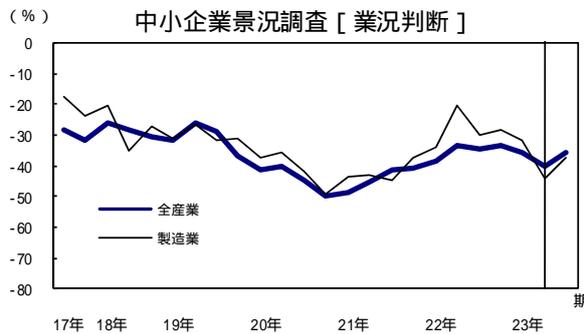
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年9月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(6月)[企業動向関連(現状)]

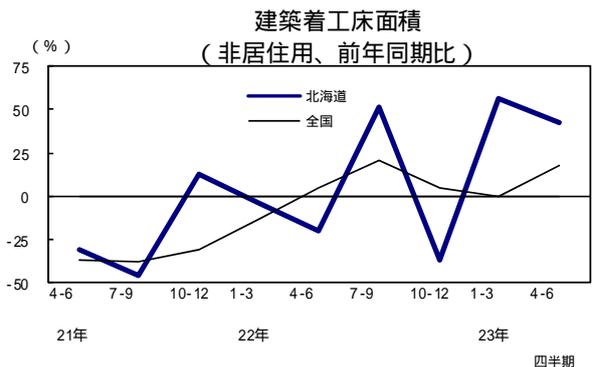
「加工単価が下がっている一方で、材料代が上がっているため、なかなか景気が良くなってこない(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

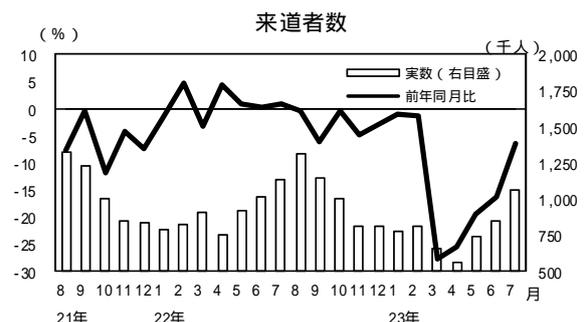
	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	30.0(2.8)	3.9(2.7)
製造業	51.9(7.4)	30.2(42.5)
非製造業	19.8(7.9)	11.7(17.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直しの動きがみられる。

来道者数は、4月は東日本大震災の影響で航空機、JRで大幅に減少した。5,6月は修学旅行の取りやめ等による大幅減や旅行控えにより前年を大きく下回った。7月は、航空機を中心に回復傾向となっている。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

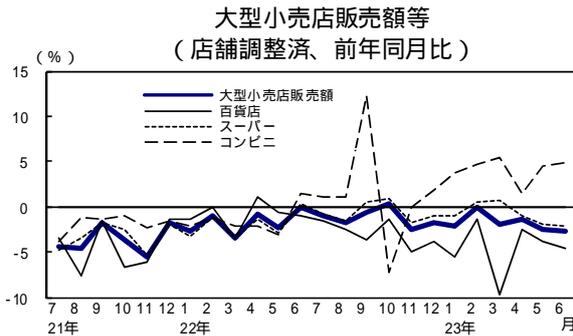
大型小売店販売額は、前年同期比で2.2%減、前期比で0.5%増となった。

百貨店は、4月は、3月の買い控えの反動から春物衣料に動きがみられたため、前年比低下幅が減少した。5月は、気温が低い日が続き、天気も悪かったため、夏物衣料の動きが鈍く、前年比低下幅が拡大した。6月は、5月同様の天候が続いたことや、月後半には夏物商材のセール待ちがみられたことから、前年比低下幅が拡大した。

スーパーは、全体的に飲食料品が好調だったが、買いための反動等により前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「季節商材の動きが活発になってきており、消費マインドが少しずつ上昇してきている(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	1.1	1.3	1.4	2.2
百貨店(*1)	2.5	3.4	5.8	3.6
スーパー(*1)	0.6	0.6	0.1	1.7
大型小売店(*2)	3.4	1.0	0.5	0.5
(季節調整値)(*3)	(0.5)	(1.1)	(0.2)	(0.5)
乗用車(*4)	10.9	23.8	23.5	31.2
(季節調整値)(*4)	(4.3)	(27.8)	(2.9)	(12.3)

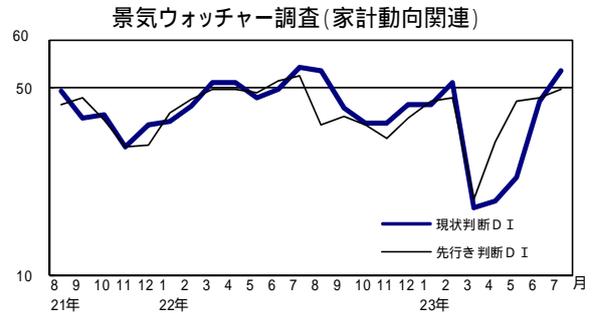
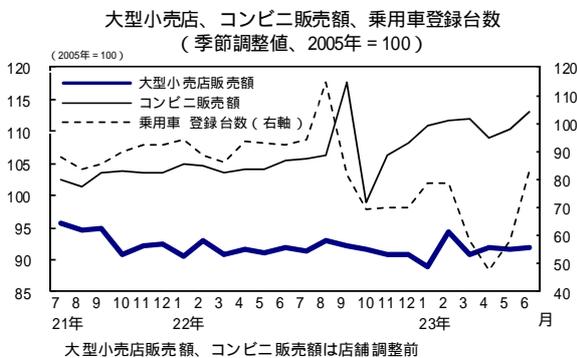
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家や分譲が前年を上回ったことから全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

